

# 「学び続ける学校」を目指す取組

帯広市立啓西小学校  
学 級 数 17  
( 校長 橋 場 仁 )

## I はじめに

本校は昭和41年、市内啓西地区のベッドタウン化の進展に伴って開校した。現在、校舎の周辺には徐々に交通網が整備され、スーパーマーケットや金融機関、交番等も整うなど、当時の田園風景は近代的な市街地へと変貌してきている。校区内には“世界で唯一”となった『ばんえい競馬』を行う帯広競馬場があり、総合的な学習の時間における馬と触れ合う活動及び競馬場敷地内の農園を利用した活動など、本校の特色ある教育活動を支えている。

平成28年4月から北海道教育委員会の「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校として、新しい時代の学校づくりを目指して取組を進めてきた。

大変恵まれた教育環境のもと、学校の歴史は脈々と刻まれ、多くの人材を輩出するとともに、平成29年度には「開校50周年記念式典」を挙行することができた。

令和に入ってから本事業の基盤も固まり、学校の働き方改革の取組と相まって、新しい時代の要請に応える学校の姿が見え始めている。



## II 学校の概要（令和2年度）

- 【児童数】 378 名
- 【学級数】 17 学級（特別支援学級5）
- 【教職員数】 29 名（道費負担教職員）
- 【重点目標】
  - ・「対話」重視で 子どもの主体性と自己肯定感を高める。
  - ・「チーム」、「組織対応」重視で学校の力を高める。

## III 事業推進の柱

- 合言葉は「学校力向上で目指す子どもの未来保障～啓西Styleの追求～」
- キーワードは「統一と徹底」 「共有化」⇒「焦点化」⇒「具体化」

## IV 事業推進の経過

本事業の指定を受けたのは平成28年度からである。ここでは校長の在任期間をもとに、便宜上平成28年度～29年度を＜事業推進第1期＞とし、平成30年度～令和2年度までを＜事業推進第2期＞とした。

### 【第1期の重点的な取組】

#### 1 学校改善プランの充実

子どもにどのような力が付いたのかを可視化するために、各種調査等の数値目標を設定し、取組を進めた。

#### 2 「学校改善会議（GKK）」の機能化

8月と1月に「学校改善会議（GKK）」を開催し、学校評価等に基づいて数値目標の再検討を行った。



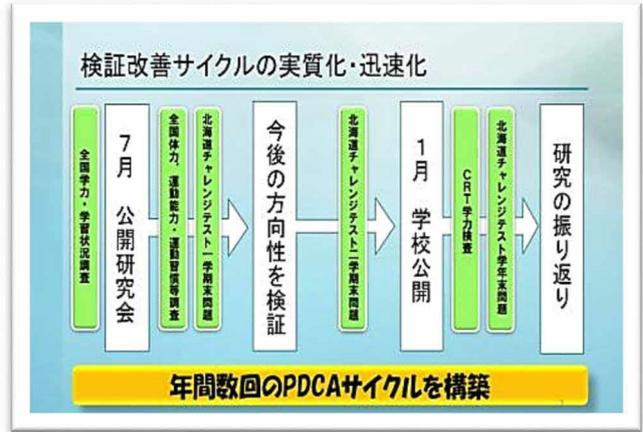
### 3 検証改善サイクル（PDCA）の定着

1年間のスパンで行う検証改善サイクルと、年に数回の小さな検証改善サイクルを有機的に結びつけ、学校改善を進めた。

### 4 1学期の公開研究会と全員の授業公開

年度の早い段階で学校として課題を把握し、共有するために、全学級の授業公開を行う。

活発な意見交流にするため、事後の研究協議では複数のグループでワークショップ型研修を取り入れた。



### 5 学力向上の取組

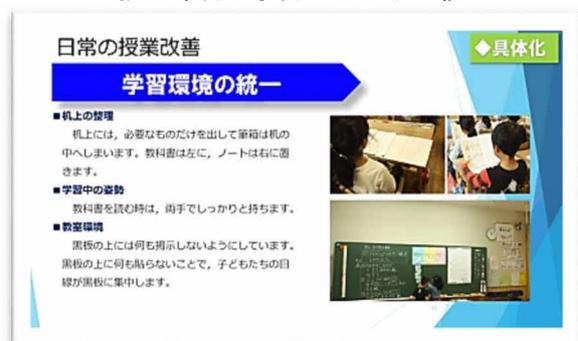
学校改善プランの（学力向上プラン）に基づき、各種の取組を進めた。

<全国学力・学習状況調査の活用>



※調査結果が届くまでの期間を有効に活用

<教室環境や学習のきまりの統一>



※学年が変わっても同じ学習方で安心感

<朝の「けいさんタイム」の実施>



※「学校改善会議（GKK）」から生まれた取組

<放課後学習「けいせいくん」>



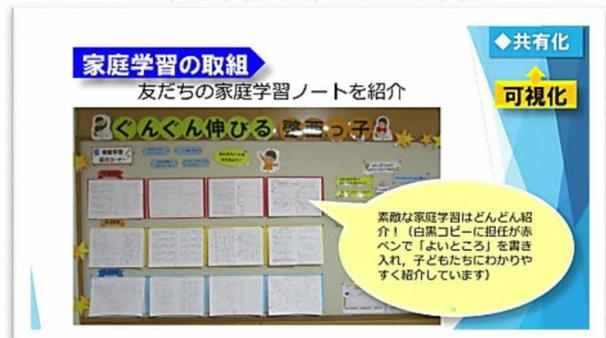
※家庭学習の定着へつなげる放課後学習

<日常の授業改善を目指す校内研修>



※授業改善を目指して算数科を研究教科に設定

<家庭学習定着に向けた取組>



※友だちのノートのよいところを参考

## 6 体力・運動能力等向上の取組

### <全国体力・運動能力、運動習慣等調査の活用>

【全国体力・運動能力・運動習慣等調査】の活用

<H29年度の調査結果からわかる本校の児童の実態>

- 男子については、8項目のうち3項目(上体起こし・長座体前屈・立ち幅とび)で全国・全道平均を上回っており、体力合計点で見るとほぼ全国と同等である。
- 女子については、8項目のうち2項目(長座体前屈・立ち幅とび)で全国・全道平均を上回っているが、体力合計点では若干下回っている。
- 「運動が好き」「体育の授業が楽しい」と答えた児童が男女とも全国・全道平均を大きく上回っている。

現在の状況を把握し、具体的な数値目標を設定

→平成30年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、**体力合計点を全道平均以上に!**



※現在の状況を把握し具体的な数値目標を設定

### <楽しく体を動かす機会の設定>

各種調査の活用 【全国体力、運動能力・運動習慣等調査】

**楽しく体を動かす機会の設定** **運動の日常化**

遊びコーナー「このゆびとまれ」

- 子どもたちにいろいろな遊びを知ってもらい、友達との交流を広げる場を設定
- 遊びのイベントの定期的な実施
- なわとび検定等、各種運動の検定を企画実施



※運動の日常化を促す掲示の工夫

### <運動環境の工夫>

各種調査の活用 【全国体力、運動能力・運動習慣等調査】

**自然に体を動かしたくなる運動環境の工夫**

体育授業とリンクした取組

- 遊び道具の貸し出し(キックベース等)
  - 体育の授業で行った運動を休み時間も自由に遊べるようにする。
- 体育用具の設置(ハードル等)
  - 体育の授業で実施している期間は常設とし、休み時間や放課後に取り組めるようにする。
  - ※安全を考慮し、体育で学習した学習の取組をすることとする。
- 体育設備の設置(体力テスト種目の用具等)
  - 自由にいつでも練習や計測ができるようにする。

体育の授業の日常化



※自然に体を動かしたくなる環境づくりの工夫

### <外部人材の活用>

各種調査の活用 【全国体力、運動能力・運動習慣等調査】

外部人材の活用

- 常広大谷短期大学&啓西小学校 遊びの交流「OK広場」(O…大谷、K…啓西)
- ExclamationNの皆さんと「よさこい交流」
- ヒップホップダンス教室



※外部人材活用も大切な環境

## 7 幼・小・中の連携

### <生活リズムチェックシートの活用等>

エリア・ファミリー構想に基づく連携

**西陵中エリア・ファミリー**

西陵中学校・広福小学校・啓西小学校・柏林台カトリック幼稚園・すずらん保育所・あやめ保育所・柏林台児童保育センター・広福児童保育センター

- 生活リズムチェックシートの取組
- エリア校公開研・参観日への相互参加
- エリアでのスマホ・ケータイ安全教室の実施
- 指導方法の交流等合同研修会
- 保育所の小学校遊戯訓練参観
- 小中の交流
  - (校長会によるコンサート・パワーアップ勉強会)

学びの連続性をふまえた校種間の円滑な接続



西陵中エリア・ファミリーの連携

**生活習慣の見直し・改善**

生活リズムチェックシートの活用

同一時期に西陵中エリア・ファミリーの幼稚園・保育所・近隣小学校・中学校・児童保育センターと共通して児童生徒の生活習慣や運動・健康への関心を高めていく。

1-7テレビターも併せて年2回実施



※西陵中学校エリアファミリーとして「学び」と「育ち」の連続性を踏まえた円滑な接続

### 【第2期の重点的な取組】

#### 1 学校マネジメント

学校改善会議 (GKK) の役割や機能の再確認を行い、目指すゴールやプロセスのイメージを全教職員で共有するとともに、検証改善サイクルの実質化を図った。

- (G) 数値目標の設定
- (P) 方法についての協議
- (D) 実施・実践
- (C) 到達状況・実施状況の評価
- (A) 方法の工夫・改善

学校マネジメント

**GKK(学校改善会議)**

ゴールイメージの共有・プロセスイメージの共有

【内容】

- 全教職員でゴールを設定する。
- 全教職員で子ども達の学力・体力に関わる現状を知る。
- 全教職員で目標達成までの方法を考え、共通理解する。

一人で奮闘 → 組織で対応 (共に考え、共に学び続ける 教師集団へ…)



## 2 新しい学習指導要領への対応

令和2年度から全面実施となる学習指導要領について各種の準備・研修を進めた。また、新しい学習評価について研修を行い通知表「あゆみ」の見直しを行った。

### <道徳の授業に関する研修>

### <プログラミング教育に関する研修>



※教育委員会指導主事、研究所員、他校の道徳教育推進教師を迎えて

### <学習評価に関する研修と「あゆみ」の改善>

新しい学習指導要領が目指す、子どもに身に付けさせたい力を継続的に評価することを踏まえ、通知表の項目を単元（題材）別から観点別へ変更した。

また、評価のスパンの変更に伴い、通知表「あゆみ」を渡す時期を各学期末（3回）から年2回に変更した。



## 3 指導方法の工夫改善

### <算数科を中心とした日常の授業改善>

### <習熟度別少人数指導の充実>

#### 指導方法の工夫

#### 学力 算数科を中心とした日常の授業改善

課題解決的な学習過程を重視した授業の実践

#### 指導事項の焦点化

- ・解決への見通しをもたせる導入
- ・解決につながる交流活動
- ・適用問題の位置付け

一人で解ける力をつける



※課題解決的な学習過程を全学年で共有

#### 指導方法の工夫

#### 学力 習熟度別・少人数指導による個に応じた指導の充実

習熟度が不十分な児童に焦点を当てた、積極的な習熟度別少人数指導（3～6年生の算数科で実施）

個に応じた  
きめ細かな指導



※少人数による「学び合い」を模索して

### <ICTの活用>

### <校内研究の見直し・論点整理>

#### ICTの活用

全学年に大型テレビとiPad学年に実物投影機が導入されています。毎日さまざまな場面で活用されています。



※大型テレビとタブレットで集中力向上

#### 今年度の研究の視点

#### ①『教師の働きかけの工夫』

一人一人が自分の状況を「わかる」ことで、課題に取り組む手段を見つけることのできる授業づくり。

#### ②『問題を解決する力の定着』

学習した課題解決方法を身に付け「できた」と感じられる授業づくり。

※研究仮設や視点を再検討し整理



## 6 働き方改革への着手

「学校改善会議（GKK）」の時間に、経験年数に応じたグループ構成で「働き方改革」をテーマに、現状と課題、望ましい姿について交流した。

各グループから出た意見を集約し、次年度の学校経営の改善を図るための視点とした。



初任段階グループ

ミドルリーダーグループ

学校経営の視点 ～働き方改革を踏まえて～	
密西小学校 校長 橋 場 仁	
<視点1> やめられないか？ 減らせないか？	*各種会議・打合せ・反省会等 *家庭訪問 *連絡網 *作品コメント *職場内の年賀状 *職場への土産 *陣中見舞い *運動会 *学習発表会 *印刷物「密西ナビ」作成 *徴収金 *PTA業務 *参観日 *年賀状 等
<視点2> 変えられないか？ 換えられないか？	*各種会議・打合せ・反省会等 *あゆみ（観点別・二期制） *学校便り *総合的な学習の時間 *校務分掌 等
<視点3> 揃えられないか？	*学習過程 *学習用具 *学習姿勢 *学級通信様式 等
<視点4> 教師が授業に集中するためには？	*不登校対策 *保護者対応 *児童支援 *校内環境整備 等
<視点5> もっとICTを活用するためには？	*事務部の位置付け *情報管理部（機器メンテナンス・広報・ホームページ） *機器の固定等（周辺の整理）一層の活用 *公開表示等の電脳化
<視点6> 応援団をつくる・生かすには？	

## V 今年度（令和2年度）の取組

### 1 事業内容の整理（可視化）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学校教育においても「過去に経験したことのない日常」を送ることとなったが、「学校力向上に関する総合実践事業」の学校指定は最終年度となるため、年度初めには事業内容の再確認を行い、できる限りの取組を行うこととした。

また、整理した項目に基づき、実践を紹介する通信「学び続ける学校」を定期的に発行し、帯広市校長会の会員に配付した。

### 2 働き方改革の推進

昨年度までの「学校改善会議（GKK）」で検討してきた「学校における働き方改革のあり方」を具現化するために、実施済みの項目を含めて視点ごとに具体策をまとめた。改めて「学校マネジメント」と「働き方改革」が、密接に関わっていることを認識できた。

教職員から出たアイデアと本事業の研究協議会等での情報をもとに一つ一つ形にしていった。



職員室の連絡ボード（月別行事予定表廃止）

#### (1) 働き方改革

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| 【視点1】 やめる・減らす  | 【視点2】 変える・換える       |
| 【視点3】 揃える      | 【視点4】 授業に集中する（向き合う） |
| 【視点5】 ICTを活用する | 【視点6】 応援団をつくる・生かす   |

#### 視点1 やめる・減らす

- |                           |      |   |
|---------------------------|------|---|
| ☆職員会議（回数限定・時間短縮・ペーパーレスなど） | ⇒ 定着 |   |
| ☆朝の打ち合わせ（毎日から週1の夕打ちへ）     | ⇒ 定着 |   |
| ☆連絡網の廃止（安全メールへ）           | ⇒ 定着 |   |
| ☆職員室の行事黒板の廃止（連絡コーナーへ）     | ⇒ 定着 | 他 |

## 視点2 変える・換える

- ☆家庭訪問の見直し（実施学年の限定・教育相談へ） ⇒ 定着
- ☆運動会の見直し（午前開催へ） ⇒ 未実施
- ☆通信簿「あゆみ」の改善（観点別・二期制へ） ⇒ 初年度
- ☆作品への個別のコメント廃止（掲示方法の工夫） ⇒ 初年度 他

【事例】4年生 写生会の絵「自転車」  
 ■学習指導要領の図画工作（3～4年生）の内容を生かして記載します。  
 ☆「表現」のキーワードは・・・  
 ※形や色、材料などを生かす  
 ※見たことをどのように表すか考える  
 ※これまでの経験を生かす

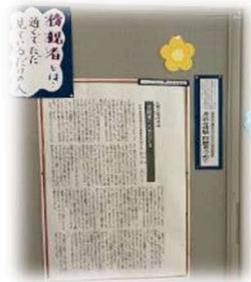


## 視点3 揃える

- ☆学習用具の統一（ノートや定規等の推奨モデルの明示） ⇒ 定着
- ☆板書事項の統一（「課題」「まとめ」等のカードの統一） ⇒ 主に初任者
- ☆教師のスタートカリキュラムの確認 ⇒ 定着
- ☆学級通信の様式の統一（A4版縦・データで引継ぎ） ⇒ 定着 他

## 視点4 授業に集中する（向き合う）

- ☆指導体制の工夫（チーム編成） ⇒ 定着
- ☆学年費等の徴収方法の見直し（事務主任との役割分担） ⇒ 初年度
- ☆個別案件への管理職の関与（不登校対応・保護者対応） ⇒ 定着
- ☆管理職による啓発資料等の掲示（環境整備・啓発） ⇒ 定着 他



## 視点5 ICTを活用する

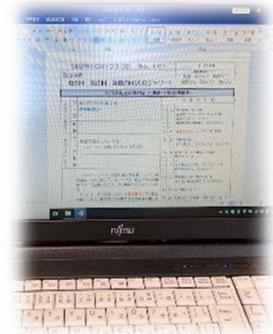
- ☆日報・各種文書・校長通信等の共有ファイル化 ⇒ 定着
- ☆各種様式のデータ化（手書きからの脱却） ⇒ 定着
- ☆自動計算システム等の活用による作業負担軽減 ⇒ 定着
- ☆タブレット・実物投影機の日常使用 ⇒ 定着 他



実物投影機で子どものノートを拡大し提示



タブレットを使いこなす若手教員



共有フォルダにアクセスすれば  
 様々なデータ・様式を入手可能



### 【共有フォルダの使い方に関する研修】

共有フォルダの構成、アクセス手順などについて研修を行う。  
 講師は、各種計算式やデータを管理する教務担当者が行った。

## 視点6 応援団をつくる・生かす

- ☆図書ボランティアの活用（図書館活性化・読み聞かせ）⇒ 定着
- ☆PTA朝の見守り活動（見守り隊高齢化への対応）⇒ 定着
- ☆フッ化物洗口の取組（準備や後片付けボランティア）⇒ 未実施
- ☆漢字検定等の取組（CSの取組として）⇒ 未実施 他



ボランティアの方による  
朝と昼の「読み聞かせ」



### ＜これまでの取組を継続・発展させて＞

本校では、帯広市が推進する「エリア・ファミリー」の取組や、学校支援地域本部事業を基盤として、今後の地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの取組に移行する予定である。  
※現在、新型コロナウイルスの影響でスケジュールに遅れが生じている。

## 3 校長のリーダーシップに基づく取組の推進

### (1) 教育理念や経営方針の浸透

#### 校長の願い <常に「問い」を持ち続けること>

あらゆる学校で校長のリーダーシップは必要である。特に、多様性を尊重する現代社会において、校長の教育理念や学校経営方針等を校内外に周知・浸透させるためには様々な工夫が必要である。今年度は新型コロナウイルスの影響で浮かび上がってきた学校教育の課題や、これまでの慣習等について「問い」を立てて、新しい時代の学校に何が求められるかを意識しながら、学校経営を進めている。

#### 【学校経営グランドデザインの提示】

学校経営方針と年度の重点を明記するとともに、目標にせまる手段としての「学校力向上に関する総合実践事業」の各項目を示した。

校長室、職員室への掲示をはじめ、ホームページでの公開など、広く周知している。

#### 【年度はじめの職員会議】

長年、教育行政に携わる中で見聞きしてきたことを、少々時間をかけて生の声で伝えた。

特に、勤務規律に関することでは、教育委員会に届く保護者や市民の声・目の厳しさ、懲戒処分辞令交付時の様子など守秘義務に反しない範囲で伝えた上で、今年度の学校経営方針を丁寧に説明した。

#### 【校長室通信の発行】

月に2～3回の頻度で「校長室通信」を発行し、学校教育に関するタイムリーな話題や、勤務規律に関わる情報、各教室の実践紹介、校長会議や各種会議の報告等を本校の教職員に伝えている。重要と思われる内容は、異動者・初任段階教員のために繰り返し掲載している。

今年度からは共有フォルダにPDF版を掲載しペーパーレスとした。



## 【学校便りのコラム欄の活用】

本校の学校便り「けいせい」は概ね週に1回発行している。月に1回程度の割合で校長によるコラム欄「琴線」を利用し、学校教育や子育てに関する出来事等について、校長が日頃感じていること、考えていること等を学校経営方針等と関連させて保護者に伝えている。

## 【各種研修会等の機会の活用】

本事業の指定を受けていることで、本校では様々な研修会の受け入れの機会がある。その際、会場校の校長挨拶や配付資料等で学校経営方針等に触れるようにしてきた。今年度は新型コロナウイルスの影響で機会は少ないが、昨年度までは他町村の教育委員会や学校の視察、校区の民生委員等の研修会等を積極的に引き受け、学校教育における今日的な課題とともに学校経営方針等を紹介するよう心掛けた。



【令和元年度 民生委員の研修会の様子】

## (2) 協働意識の高揚

### 【校長の願い】 <啓西小の児童は啓西小の全教職員で育てる>

年度の初めに、全教職員でこの言葉を確認した。「複数の目で育てること」「学校のあらゆる場所が子どもの居場所であること」等を胆に銘じて指導にあたるとともに、同僚性を育む環境づくりを目指している。また、一斉退勤が可能となるよう仕事の分担を意識するようになっている。



【令和2年度 月別平均超勤時間の掲示】

## 【学年内担任副担任制・教科担任制】

統一感ある学年経営に加えて、年度初めに「学年内で各学級担任が互いの副担任となる」ことを児童と保護者に明示し、複数の目での指導や相談しやすい体制を整備した。また、学年の実態に応じて担任の得意分野を生かした交換授業や教科担任制に取り組んだ。

## 【全スタッフによるチーム編成】

上記の取組に加え、各ブロックに学級担任を持たない教師、特別支援学級の担任や特別支援補助員・介助員を配置しチーム編成を行った。チーム内での指導や、印刷作業、掲示物作成作業等を分担することにより、個々の教職員の負担を軽減するよう努めた。

## 【勤務時間と退勤時刻の管理】

帯広市の働き方改革推進プランの目標に基づき、教育委員会から提供されたシステムを活用して、超過勤務時間の全体の平均時間を月別に掲示し管理した。

また、定時退勤時刻（16:30）と、校舎施錠の目安となる18時にBGMを流して意識付けを図った。



【令和2年度 校内体制】

## 【事務部の参画】

本事業のためのミッション加配として事務職員が1名加配されていることを生かして、教務部と事務部を校務分掌の中心に据えた。このことにより教育課程や個別の生徒指導等にも事務職員が積極的に参画している。



【ウェブページ TOP】

また、ホームページを毎日更新するための写真撮影、企画書に基づく更新作業を組織的に行うなど、学校からの情報発信において重要な役割を果たしている。



#### 【ホームページアクセス数】

平成28年3月設置のカウンターは、令和2年度1120日現在で128650回を超えている。

ここ数か月の1日のアクセス数の平均は、概ね200～300回を数えている。

### (3) コミュニケーション

#### 【校長の願い】 <ありがたい言葉を惜しまず>

学校経営は校長一人ではできないものではない。教職員には日頃から小さなことでも「ありがとう」という言葉をかけるように心がけている。これは、校長自身が過去にアメリカ合衆国で勤務した際に日常会話の中でたくさんの「Thank you!」を耳にした経験による。このような「日々のコミュニケーション」を大切にしている。

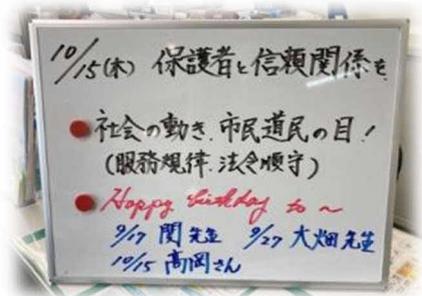
#### 【校長室のドア開放と日常的な声かけ】

校長室と職員室の間のドアは、原則的に常時開放し、誰もが自由に行き来できるようにしている。文書に職印（校印）の押印を求めてくる職員、金庫保管の家庭環境調査票を取りに来る職員等には積極的に声をかけるようにしている。

また、職員室内を積極的に歩き、気になる子どもの話などでコミュニケーションを図っている。

#### 【ホワイトボードを用いた継続的な呼びかけ】

本校では毎朝の打合せを行わずに教室での「つく指導」を原則としている。教頭の毎日の連絡（日報）は共有フォルダに入れているが、校長からのメッセージを職員室の校長席机上にホワイトボードを置き、毎日記入している。「月曜日や雨の日は特に児童の心に寄りそうように」「新型コロナウイルス感染防止策の徹底」「教職員の誕生日祝い」等、内容は多岐に渡る。



#### 【文書決裁時やあゆみ点検時等のコメント添付】

毎学期末の「あゆみ」の点検時に、各担任に労いの言葉を書いた付箋を貼り付けて返却してきた。併せて、全ての学校職員に、個別に感謝と労いのコメントを届けた。

また、決裁用の文書や校務員日誌等には、日常的に感謝の言葉や激励の言葉を書いた付箋を貼り付けて届けている。



#### 【教職員の誕生日を祝福する】

大人でも褒められたり、祝福されたりするのは嬉しいはずである。本校では木曜日の放課後に行う週の打ち合わせ時に、その月に誕生日を迎える教職員を全員で祝うことにしている。

本人からの一言の後で拍手を送るだけのささやかなセレモニーだが、風通しのよい職場づくりのために効果があると考えて取り組んでいる。

#### (4) 人材育成

##### **校長の願い** <主体的に動ける人材・組織に>

本校の組織的な人材育成の仕組みとしては「啓西小学校OJT」があげられる。初任段階教員拠点校指導教諭がリーダーシップを発揮し、学校教育に関するいろいろなテーマを設定し研修を進めている。

こうした取組とは別に、校長がリーダーシップを発揮する人材育成の取組として、経験年数や役職等に応じた働きかけを行ってきた。

##### **【初任段階（若年層）の人材育成】**

- ① 校長の授業協力
  - ・初任段階教諭の教室で道徳等の授業を公開し、発問の仕方、教材の範読の仕方、板書の仕方等についてレクチャーした。
  - ・漢字のまとめのテストの採点を行い、○のつけ方、一言コメントの書き方等を示した。
- ② 教材作成等の課題提示
  - ・国際理解教育コーナーに掲示する“世界の「ありがとう」”を紹介するポスターの制作を、拠点校指導教諭を通じて指示した。
- ③ 児童詩誌「サイロ」への投稿
  - ・教職員の作品を募集する「創刊60周年記念号」に投稿する詩の創作を促した。若手教員を中心に、子どもへの思いが綴られた作品を複数投稿することができた。



##### **【ミドルリーダー（中堅層）の人材育成】**

本校では「働き方改革」の一環で、職員会議の回数を大幅に減らし、概ね2か月に1回開催している。校長の意思決定は職員会議に先立つ校務運営委員会で行うため、各主任等が学校経営に積極的に参画することができるよう校務分掌組織の工夫を行った。

##### **【学年内OJTが可能となる校内人事】**

各学年2学級という学校規模を考慮し、可能な限り学年研修でOJTが進むように年齢等を考慮した。学校の実態から、高学年は経験者同士で組むこととし、低学年と中学年は年齢差を生かした配置とした。

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
30代	20代	40代	30代	40代	60代
20代	30代	20代	20代	40代	50代

##### **【教頭の能力を最大限発揮させる】**

本校では、歴代の教頭が「職員室の担任」という立場と「校長補佐」の両面から、実力を十分に発揮してきている。「学校便り」の作成等、自分が校長だったら…という意識で文章を書いたり、仕事をしたりするよう指導・助言するとともに、できるだけ教頭の主体性を引き出すよう心掛けている。

## VI 検証・成果と課題

### 1 アンケート調査による検証

現段階での教職員の意識調査を次のように1～4ポイントのアンケートで行った。

【実施期間】 令和2年11月16日～20日

【回答数】 29名

【調査項目】 別記事業の柱1「包括的な学校改善に関する内容」6項目について、4段階で回答を求め、4と3の比率をレーダーチャートで表した。

過去5年間の第1期（平成28年度～29年度）第2期（平成30年度～令和2年度）に分け、主として第2期（過去2～3年間）を念頭に回答を求めた。

※学校経営の重点の具現化を目指し、本事業の6つの柱を学校経営案に明記しています。  
これらの項目について、個人・学校組織両面から総合的に評価してください。

4 大いに成果があった

3 概ね成果があった

2 成果が少なかった

1 成果はほとんどなかった



#### 【調査結果】

「学校マネジメント」から「人材育成」までの4項目は90%超となったが、「働き方改革」84.6%「家庭・地域との連携」73.1%と若干の落ち込みがみられた。

## VII 結びにかえて

学校力向上に関する総合実践事業の学校指定を受けて5年間、本校では様々なことに取り組んできた。指定を受けた初年度は、本事業全体を俯瞰し校内で共通理解を深めながら事業を進めることが求められた。

これまで学校が取り組んできたこととの違いを見いだすことが難しく、不完全燃焼気味の教職員も少なくなかったと聞く。

しかし、実践を重ねていく中で、事業の趣旨や目的、役割等の理解を深める機会も多くなり、個々の教職員の意識も高まってきた。同時に、個の意識や力が「チーム啓西」という組織の意識や力に集

約されてきた。

「学力」「体力」等の数的データは必ずしも十分な結果を導き出すことができなかったが、「啓西っ子」の幸せを願って一丸となった「チーム啓西」の姿からは、着実に「学校力」が向上したという実感を全教職員が実感できたものと思う。

今年度末までには、実施計画書の検証項目をもとに本校における本事業の最終的な評価をしたい。